

第 15 回 森会勉強会報告

～森会 2024～2028 年 保全五カ年計画を踏まえ、 カブトムシの森をみる～

この勉強会は、会員が森林について理解を深めること、会で策定した 2024～2028 年保全五カ年計画に講師からコメントをいただくこと、の 2 点を目的として、実施しました。

とき 2024 年 8 月 18 日(日)9:30～12:00

講師 福岡県保健環境研究所 環境科学部
環境生物課 須田隆一氏

概要 講演(於自然観察センター)、現地観察、
(於カブトムシの森)、質疑

参加会員 11 名

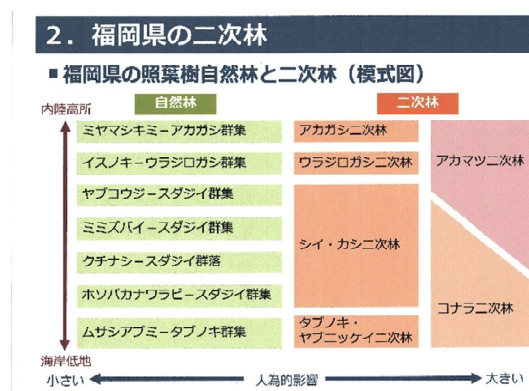
◆講演 「福岡県の里山の現状と今後の展望」

9:35～10:10 (含む質疑)

＜講義の内容＞

1.里山とは (里山・関連する言葉について)
里山 人里周辺の林地、農地・ため池・草地等
雑木林 かつて薪炭林として使われて成立
二次林 原生林が災害等で破壊後自然に成立

2.福岡県の二次林



福岡県の植生は自然林が 0.66%、二次林が 12.7%、植林地が 30.3%。人工林や古くから利用されてきた里山が多い。

二次林では、落葉広葉樹(コナラ、ノグロミ等)、常緑針葉樹(アカマツ)、常緑広葉樹(スダジイ、アラカシ、タブ等)がそれぞれ優占する。福岡ではクヌギは二次林にまじらない。

3.里山の過去と現在

過去には、里山は人家近くにあり、暮らしや農業用の、食料、燃料、家畜の飼料・敷料、堆肥等肥料、資材を生み出した。防風などの機能をもつこともあった。

しかし 1970 年代頃から利用されなくなり、結果、ナラ枯れ・松枯れ、藪化、竹林の拡大、イノシシやシカの進入などが起きた。自然に対する人の働きかけが縮小することで数が減ってしまう生物がいる。たとえば、キキョウ、リンドウなどの草原性生物。水田に生息するトンボ類やカエルなど。

4.里山の整備目標と計画

- ①景観としての里山林
 - ②生物多様性保全の場としての里山
 - ③バイオマス生産の場としての里山
 - ④レクリエーション・教育の場としての里山
 - ⑤自然林に誘導する
- 油山では目標に④が含まれる。



《座学 質疑の時間》

◆ 質疑と講師コメント

講師 油山で、ナラ枯れしている樹種は？

会員 マテバシイ（おとし 2022 年）、コナラ（去年 2023 年）から。

講師 計画は現在の会の人員でできるのか？

会員 クヌギコナラを伐るだけでなく他に様々な作業がある（やや遅れている）。

講師 クヌギコナラの伐採作業以外内容は？

会員 他の樹種はどこまで何をどう残すか、共有できていない。

講師 管理作業について。落ち葉かきは 年内にすると、栄養が抜けない。埼玉では、サツマイモの堆肥などにしている。ザサは夏の刈り払いが重要

講師 里山管理研究者中川重年さんによると、ボランティアの作業量として、1ha に 10 人必要。活動地はどれくらいの面積か？

会員 アカマツ林＋カブ森で 1ha くらい。活動がすべて作業ではない。子供がいると、作業量は減る。

会員 森会はいろんなことが実践できておもしろい。やりたいと思う人を探さないといけない。どうしたら、会員が増えるか。

講師 楽しみ 食べるなどあるかも。いろんなきっかけで、入ってもらうことが重要。

センター行事とうまく連携できないのか？行

事に来た人に、森会に参加してもらうなど。

会員 この夏も、センター行事に参加して、チラシを配った。カブ森活動日は、森沿い周回路に、活動紹介パネルを設置している。伐倒時には、作業説明人を配置している。

会員 ナラ枯れは対策したほうがいいのか。しなくていいという人もいる。

講師 コナラは幹直径 30 cm すぎると萌芽更新できなくなる。ナラ枯れ後は、伐採したほうがいい。マテバシイはナラ枯れ後も、萌芽するので、志賀島等でそのままにしている

会員 国の環境譲与税は、市町村に降りてくるが、そういうお金は伐採に使えないのか？

講師 まずは、してほしいことを施設管理者に伝える。

会員 アカマツ林で、木の枝が道に出ているのは、切っていいのか。

講師 枝をきるのは、木に影響がない。

4. 里山の整備目標と計画

■カブトムシの森整備5カ年計画に対する所見

- ・これまでの経緯と現状を踏まえたうえで、洗練された計画が策定されている
- ・伐採木の有効活用という出口が示されており、好感が持てる
- ・作業人員を勘案すると、もう少し整備項目を絞った方がよいし、モチベーションも上がるのではないかと
- ・各地区の整備方針は、将来的な達成目標であるので、5年後にどこまで目指すのか、合意を得ておいた方がよい
- ・森を育てる会が行う整備項目と施設管理者が行うべき項目の区分が不明瞭なところがある
- ・これまでに伐採した切り株から、すでに萌芽が形成されているとのことであるが、補植は必要ないということによいか
- ・クヌギ、コナラ以外の樹木の取り扱いがあいまい。例えば、C地区ではケヤキは残すのだろうか

24

＜現地観察＞ 12 時まで

自然観察センターからカブトムシの森に徒歩移動。カブトムシの森 C 地区手前から森にはいり、B 地区→A 地区（周回路沿い）、A 地区→B 地区（国有林沿い）の道を通り森の観察。C 地区あすまやでまとめ。



《C 地区 林床はササが優占している》

代表 C 地区についてササの全面刈をしないことを考えている。ケヤキとクスはそれぞれ 1 本残す。ケヤキを食草とするヤマトタマシが出たので。電線下のクヌギも残っているが、森会では伐れない。

講師 ササを最後に刈ったのはいつか？

会員 1 年たっている。今年、していない。

講師 ササの勢力を弱めるには、夏に刈る。野草を導入するのは、先の話では。刈った草をどけて、土を掻いてから。ササは継続的に刈ると弱まる。年 2 回とか。密度も減る。このままだと野の花が出ない。

B 地区

講師 木を伐ると草刈りが大変。クヌギコナラを伐るのは萌芽更新のためか？カシナガキクイムシ対策でなく？

代表 計画が先だった。

講師 B 地区については、伐採も含め作業が無理だったら、クヌギは残していいのでは？

A 地区

講師 明るくなった。A 地区だけでも管理大変。どれくらいの広さ？

代表 40m 四方。明るくなると、林床が茂る。残りのクヌギをいつ伐ろうか、話をして

いる。今残っているのは、安全のための伐る順番で残った。A 地区であと 10 本。伐採後は木が大きくなる 7,8 年後まで草刈り要。管理者には、1 組で来る親子が怖くない程度、カブ森内の主要な道沿いは草刈りしてほしいと伝えている。

会員 太くて大きい木が伐れなかったら、下の枝打ちをする、というはあるか？

講師 それはひとつの考え方と思う。大きい木はプロに伐ってもらうしかない。ここは山奥ではないので、経費があり、森林組合等に依頼するならば、伐れる。

草刈りなど、刈りっぱなしにして、草が堆積していると、林床の植物が貧弱。刈ったのは持ち出した方が、よい。たとえば、福智山の稜線で、草刈りをして、そのままにしておくと、小さい植物は、枯死し、オキナグサなど咲かなくなる。刈り取った後が大切。

萌芽更新はクヌギだけ？クヌギはより人工林的。元々は天然だとコナラ林。コナラはいまない。ここをどうするか。補植も考えられる。本来はコナラが優占するので、コナラが全くないのはあわない。コナラよりクヌギが、成長がはやい。林床調査区内には、伐った後のクヌギがみられる、



《A 地区林床調査区を背景に意見交換》

代表 キャンプ場下、国有林に近い萌芽した

数本のクヌギは、伐って、5年たっていない。
成長が早い。

講師 各論でかんがえておくといいのは、伐採後、次世代の木をどうするか。(クサギの開花をみて)クサギは陽樹なので、伐採跡に3年後くらいに出る。クサギはアゲハチョウが来る。

会員 アカマツ林は幼木が育っている。間伐しないといけない。残したい木が遊歩道に出たら、枝を切っても木の成長に影響ないか。

講師 あまりないと思う。

会員 萌芽して芽がいっぱい出てくるのはどうするか？

代表 芽かきをしている。

講師 芽かきで残すのは、1本と限らず、数本残してよい。

代表 年に一回、出現している本来の植生の木で、残す木を話し合いたい。

会員 コバンノキ、ニガキがある。

講師 多様な樹種がのこる。クヌギ人工林ではないというのも合意がとれているか？
(ここで回答する会員はいなかった)

会員 湿地をどうするか。

講師 湿地は放置ではないか。

代表 湿地に出てくるイタドリと木は伐採している。過去あったと聞くアケボノソウは何年も見ていない。

講師 刈り取りで、地中に種が残っていた種類が出てくることがある。多様な草本を考えると、草刈りは重要。コシアブラも伐採跡に出る。

コシアブラ、ホオノキは油山に特徴的。

会員 湿地は今、藪になっている ヤブデマリがある

講師 コナラがあったほうがいい。自然に近づけようと思うなら。

会員 チェーンソーができる人がふえるといい。

会員 こういう話を聞く機会があつてよかった。里山をつくるのに、いろんな視点がある。難しいことがいっぱい。(残す)木の選択がよくわかっていない。草刈りが大変。今後、成長した木を伐るとき、少しずつ、伐ったほうが楽かな。

講師 小区画を草刈りがいいかも。誤って、残す予定だった種類の草を切っても影響は少ない。刈り残している区画から出てくる。

--世話役より--

10年ぶりの勉強会でした。会員から事前に質問をお送りし、勉強会の中で答えていただきました。「5ヵ年計画に対する所見」は質疑の中でも説明されました。会で検討し、より楽しい活動に繋げていきたいです。当日使われた質問に関する資料スライドを、以下に掲げます。須田先生ありがとうございました。(柴戸)

4. 里山の整備目標と計画

■ 質問に対する参考資料：その他

- ・管理面積
10人で1ha(100m×100m)が目安(中川, 2002)
1区画最低10m×10m(養父, 2002)
昔の新炭林伐採は1反(約1a, 30m×30m)が目安(黒田, 2023)
- ・シイタケ原木樹種の伐採適期樹齢
クヌギ: 10~15年
コナラ: 15~25年

27

4. 里山の整備目標と計画

■ 質問に対する参考資料：福岡県生物多様性戦略 2022-2026



- 第1章 福岡県生物多様性戦略の策定にあたって
- 第2章 福岡県の生物多様性の特徴
- 第3章 福岡県の生物多様性の現状と課題
- 第4章 目指す社会と目標
- 第5章 行動計画
- 第6章 推進体制と進行管理

- ・福岡県の生物、生物多様性に関する基本的な資料
- ・人と自然の関わり方の歴史の項を掲載
- ・巻末の用語解説が充実
- ・引用文献を詳細に記載

26